

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
ひろし 米山 幹子		楽	興亜 幹子	かれん 音思		展平 ことは 彩香 春駒				しーしー	喜夫 春代	つぶ金		和永 のり子 風子 かれん ありぎりす 順一
春風や街の花屋の開店日 春の花いっぱい開店の花屋。春風に花屋がお似合いです。明るい春に希望が出ます。	声のなき叫びにも似し木蓮の炎（ひ）	駆けて来るパパへと春の泥だんご 仲のいい親子の様子をうまく切り取っていると思いました。	風の声水の声きく野水仙 野水仙が良い。待ち焦がれた春の到来か季語に生き生きと表れていま	春の燭つるし飾りの影淡し 灯りに照らされたつるし飾りが印象的である。「影淡し」という表現がと春tpマツチしていても良いと思う。	落雲雀蜜の香みちる黄の畑	膏薬は一人で貼れぬバレンタイン その通り、季語との取り合わせが面白い。少年のように無垢な師の姿。作者の敬愛と親しみが伝わってきます。独り身の寂しさと人恋しさが際立つ一句。ユーモラスで切ないです。上五の膏薬に下五のバレンタイン、夫への深い思慕を感じた。	そら豆の早やお多福を競ひけり	北窓開くキャッチボールの親子かな	雛の間や深夜に密話聞こえたり	朝帰りツンとすますや春の猫 中七がいかに猫。	丸き風カーテン抜け来て春隣 丸き風が暖かく、春が隣に来てる風の感じが読み取れ秀逸です。丸き風に春の兆しを感じる。	そわそわとさても思案の種袋 「種袋」の季語・まさに春です	屋根の上騒がしいかな浮かれ猫	春の土見ゆるるものみな脈を打つ 春は生命弾ける季節です。躍動の春を上手く表現。春は生命の生まれる季節である。春の土の感じが出ています。春になって土が脈打つとは！恐れ入りました。作者の主観が清々しいと思いました。
高田はっち	光雲2	神谷たくみ	春代	しんい	しーしー	新井のり子	瞳人	米山カロ ーリング	森佳月	北郷興亜	つぶ金	ことは	宇田靖之	展平

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	水明インターネット句会（選句・選評） 令和八年三月
春代			佳月		土璃	喜夫		たくみ 土璃 ありぎりす	佳月 のり子 ひろ志 興亜 ありぎりす	ひろし			しんい	六弦	
それきりで黙す春雷箸止まる <small>それきりの措辞が効いている。</small>	湾岸をクレーン掠め鳥帰る	春眠やあと十分を何度でも	網掛けの毛糸形になれぬまま <small>形にならなくて止めてしまうのでしょうか？</small>	背負ふ子のまだ泣き止まず雪催	啓蟄や水脈の音して畦弛む	土筆とつてきて怒られて爺と孫 <small>待ち侘びた春の喜びを的確に表現している。</small>	雛祭り遠き娘の写真かな <small>爺と孫との会話が聞こえてきそうです、「怒られること」さえも家族の幸福な記憶の1ページですね。</small>	春月や乗りたき船に宇宙船 <small>再び月面へ楽しみですね。古典的な「春月」と現代的な「宇宙船」のユーモラスなアンバランスが良い。</small>	いい人と言はれて春の風になる <small>いい人と春の風の組み合わせが良いですね。某大統領に春風よ吹け！ 気持ちのいい句です。春の風が素晴らしい。素直な人柄とお見受けいたしました（＾＾）♪</small>	ドーナツの穴から覗く猫の恋 <small>発想が面白い。</small>	文鳥にウグイスの真似聴かせたる	見晴かす荒磯の渚春の風	青春に三叉路ありしライラック <small>ライラックの花言葉・いい季語ですね。</small>	いくさなき元号もありすずめ蜂 <small>そんな日が続きますように。</small>	
霜里	大越恵子	白井俊之	和田イチ子	立野音思	新曆文	ありぎりす	高松和永	河野凡士	朝子	朱筆	長谷川 おにこ	ひろ志	くるみ	山菜	

45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31
春代猫 田猫	展乎	つぶ金 順一	凡士 六弦	土璃	ことは 風子 たくみ					米山 田猫 和永 かれん 音思 朝子 はっち	佳月	楽	たくみ	展乎 凡士
スカイツリーと初燕との取り合わせが良い。美しい情景が目には浮かぶ。 スカイツリー映す川面や初燕	春の水上着を脱いで靴脱いで	青空の青と季語との措辞が好きです。イヌフグリは3月や4月でも咲いて居ますね。初春の季語だけにしておくのは惜しい季語だと思っていました。空との繋がりを大らかに詠んだ句だと思いました。	母親となりし娘の雛かな	宵町の鼻緒の朱（あけ）や朧月	少年のごとき師のをり花の寺	儂くも散りゆく桜潔よし	屋根すべる音で目覚むる春の雪	ぬるぬると目覚むる欠伸春うらら	子ら飛び出せり卒園のチューリップ手に	卒業やまだ見ぬ地図を胸に抱き	可憐なる花に佳き名を犬ふぐり	この河は通してくれと蝌蚪の群	琴の音の裏路地歩くだけの春	初めてののおめかし濃いめ雛祭り
かれん	青木鶴城	佐藤幹子	網野月を	持永喜夫	わがん	癒香	渋谷きいち	岩清水彩香	小林土璃	春駒	龍野ひろし	石関六弦	峰岡名負人	平野 楽

だれもみな、濃い目に見えます。 園児だろうか？可愛い盛り

ぼんやりとした春を楽しみたい。

蝌蚪の成群をうまく詩に表現されていると思いました。

確かに少しかわいそうな名前ですね。

素直な句だと思えます。大丈夫ですよ。卒業して知らぬ土地に行くの  
だろ。か。期待と不安が入り混じっているの。類想のありそう  
なという気もするものの、とても共感の得られる表現である。卒業の  
期待と不安の入り混んだ気持ち素直に表現した。希望あふれる句。  
期待と不安をよく表している句。

少年のように無垢な師の姿。 作者の敬愛と親しみが伝わってきます。  
啄木、楸邨、田山花袋の「田舎教師」皆代用教員、この句にはドラマ  
がありそう。少年のごとき師。想像を掻き立てられます。

日本情緒の濃密な景が浮き立っている。

早晚、雛は孫のもとへ。お雛様大事にして下さい。

いかにも、春はこれです。

60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46
はっち					くるみ					しーしー	楽		凡士	
点滴のぼとりと一つ春の雨 <small>季語が効いている。</small>	職失せし街角ピアノ春セーター	胸ボタン五つとも付け卒業だ	春の山日に日に肥ゆる我と似て	へそ出して寝こげる孫や山笑う	春一段また一段と紀三井寺 <small>一段、一段を登る度に春を感じる気持ち、同感です。</small>	夕日浴ぶ動き始める蜜柑山	初蝶や妻が庭から飛んで行く	風光る笑顔溢るるきしゅうの里	慎ましや二月礼者の佇まひ	永き日の時計一秒づつ刻む <small>一秒が永さを際立たせています。</small>	春鴉降り方拘り有るらしく	龍天に五輪で逢おうスキーンズ <small>ごみを荒らすカラスの降り方をよく目にします。</small>	入学児かつては此処に尊徳像 <small>尊徳像は歩きスマホ助長とか戦前の軍国主義を想起とかおかしな理由で撤去されている。</small>	行きゆきて海の小径に水仙花
春代	瞳人	しーしー	新井のり子	北郷興亜	森佳月	米山カロ ーリング	つぐ金	宇田靖之	ことは	展平	石川順一	雪待月田猫	染谷風子	寒立馬

75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	水明インターネット句会（選句・選評） 令和八年三月
朝子	興亜	ひろ志 はっち 六弦	のり子 春駒 きいち 癒香				ことは	暦文 ひろし きいち	順一	朝子 癒香		しんい	彩香	くるみ ひろ志	
開きかけたシャッター閉まる春一番 お父さんの遺愛の茶杓に季語がよく効いている。	甘茶仏子供あふるる村の寺 昭和の雰囲気。	卒業や首席の彼の丸メガネ	噛み合はぬ会話の増えて春炬燵 丸メガネで首席が決まる。なぜか昭和を感じる素敵な句。丸めがねが効いています。	梅咲くや風に流るる笑ひ声 噛み合はぬ会話も幸せの一コマ。春炬燵はしまい忘れていたのではありませんか？噛み合はぬ会話との取り合わせが面白い。面白い。	春林のけむりのごとき朝の径	編みおろしにつまみの花よ卒業歌	鼻垂れて語る哲学春の月 「鼻垂れて」と重厚な「哲学」の対比が可笑しくも味わい深い一句です。	啓蟄や膨らんである地平線 地平線が膨らむの表現が上手い。啓蟄と膨らむ地平線が呼応。他には無い、大胆な表現が良いと思います。	花種を五袋混ぜて庭に立つ いいですね五袋。五種類全部違っていたのでしよう。豪勢な感じがしました。	あまたの別れ三月の海は黙（もだ） 東北震災を思い浮かべた。言葉にならない多くの別れを引き受けた海の黙が印象的。海の黙の表現が良い。	皆既月食見たことにする菜種梅雨	ヨチヨチのファーストシューズは桜色 可愛いお嬢ちゃんにお似合いの桜色。	堰躍る小鮎の綱ばかりかな	七色の雨や木の芽に触れてより 確かに、雨が木の芽に触れて生気を帯びるような感覚、よく観察されていると思えました。「七色の雨」の言葉の美しさ、また、木の芽に触れて七つの色になるという発見が良い。	
ありぎりす	立野音思	新 暦文	朝子	高松和永	河野凡士	おにこ 長谷川	朱筆	くるみ	ひろ志	光雲 2	山菜	高田はっち	しんい	神谷たくみ	

90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	79	78	77	76	水明インターネット句会（選句・選評） 令和八年三月
喜夫		暦文		つぶ金 米山				暦文 和永 風子 音	くるみ 彩香			春駒 きいち	癒香	しーしー 田猫	
母のゐて父ゐて子のゐる春満月 <small>家族の幸せが一番、春萬月ですね。</small>	懐かしき草餅練りて香り立つ	春宵や知性吹き飛ぶドラムソロ <small>たまにはこんな一日も良いね。</small>	嘴先に春を灯して細魚かな	山里に夜来の雨や藪椿 <small>「に」「は」「は」でもいいのでは。素直な句だと思えます。</small>	恋ひとつ足早にする春一番	イヤリングならばフリマに春の土	君の待つふるさとの灯や月おぼろ	春愁や少女はひとり膝を抱く <small>膝を抱く少女と季語がマツチ。春愁は少女が似合います。多感な少女の春憂い。ひとり思い悩むことの多い季節をうまく詠んでいる。</small>	東風に乗り鉄路の音は旅に出る <small>心地よい句、表現も魅力的です。鉄路の音に焦点を合わせたのに惹かれたが、「音も」だったら、特選。</small>	春小雨小心者の小さい字	猫柳背中姿の首を撫で	コーヒーの冷めて名残りの雪の朝 <small>冬の朝は寒いだけでなく美しい景色も身の締まる気分も悪く無いです名残惜しいです。</small>	かがむ子の指つんつんとももの芽へ <small>指つんつんの表現が可愛い。</small>	知る庭に知らぬ鞦韆ある母校 <small>時の流れをうまく詠みこんでますね。「知る」と「知らぬ」のリズムと対比、過去と現在の対比が鮮やか。</small>	
網野月を	癒香	わがん	小林土璃	渋谷きいち	岩清水彩香	石関六弦	春駒	龍野ひろし	霜里	峰岡名負人	平野 楽	和田イチ子	大越恵子	白井俊之	

105	104	103	102	101	100	99	98	97	96	95	94	93	92	91	水明インターネット句会（選句・選評） 令和八年三月
									朝子				しんい 幹子		
							春分や今日も「大谷」売れている	囀りはまばら石段滑り落ち	一日をうかうか過ぎし目刺焼く <small>目刺を焼く小さな喜びと一日への複雑な思いが同居した一句。一日の後悔と虚脱感を季語が際立たせている。</small>	若芝に「恋」といふ字を指で書く	孫ハタチ花花そして匂い立つ	酔ひどれの千鳥足にも宵桜	風光る五分刈りにして甲子園 <small>清々しさ。春の選抜高校野球に青春を感じます。</small>	ふたり暮らしの楽しみタイム桜餅	
							雪待月田猫	石川順一	かれん	染谷風子	寒立馬	青木鶴城	持永喜夫	佐藤幹子	